

10 課題解決への参画

取組事例

43

R5 ジュニアフォレスター育成講座

～ 森林の価値を考えよう！ ～

三重県林業研究所 小学4～6年生



森林組合の人から木の伐り方を学んでいる様子

実施時期	令和5年12月～6年1月
実施場所	三重県立熊野少年自然の家
時間	4日間
対象・人数	小学4～6年生 12人
講師	三重県立熊野少年自然の家4人、熊野林星会3人、樹木医1人、三重くまの森林組合3人、森林をフィールドに子ども「生きる力」を育む指導者養成講座受講生10人、県林業普及指導員4人
備考	県主催講座

めざす姿	10 課題解決への参画 （ 01 遊び・楽しむ、 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ、 04 違いに気づく、 06 知識・技能を身に付ける、 07 科学的に考える、 08 地域の課題に目を向ける）
ねらい	森の価値を高めるために自分にできることを考え、仲間と議論する
内容	【1日目】・クイズ形式で三重の森林・林業の姿を知る ・地元の製材所の仕事や、木の使われ方について学ぶ ・手鋸で木を伐る体験から林業の大変さを知ると同時に、間伐で林内に光が入ることを体感する ・伐採した木の葉や木の実を利用してリース作りを楽しみ、樹木に親しみをもつ 【2日目】・自然観察で森に生きる動植物を知り、森がたくさんの生き物のすみかとなっていることを知る ・立木の二酸化炭素の固定量を算出し、森が二酸化炭素をたくわえるはたらきについて学ぶ ・薪割り・焼き付け体験を通して、鉋の使い方や木の熱利用について知る 【3日目】・弓矢づくりを通して小刀や手鋸の使い方を学び、自分で作った弓で矢を飛ばす遊びを楽しむ ・焼き付け体験・野外炊事を通して、木の熱利用について考える ・セーザイゲームを通して、森林整備の大切さや、製材技術により木に付加価値が付くことを学ぶ ・製材所が生き残るためのアイデアを考え、発表する 【4日目】・椅子づくりの体験を通して、木の香りやぬくもりなどを感じ、木の利用について考える ・一連の体験や学びを通して、森の価値と、その価値を高めるアイデアを考え、発表する
学習指導要領との関連	探究的な学習（小学生総合的な学習の時間） 楽しむ（小学1～4年生道徳）、植物の体のつくり（根・茎・葉）（小学3年生理科）、森林資源のはたらき・森林資源と木材生産・森林を保全する仕事（林業）（小学5年生社会科）、食物連鎖・植物における酸素と二酸化炭素の出入り（小学6年生理科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、資源の持続的な利活用・消費生活と環境（小学5～6年生技術・家庭）、自然の偉大さ（小学5～6年生道徳）、自然体験（小学生総合的な学習の時間）、加工技術（中学校技術・家庭）

取組の内容

伐倒体験の様子



体験する

1日目

リース作りの様子



知る



鉈を使った薪割り体験の様子

体験する



体験する

焚き付け体験の様子



セーザイゲームの様子



体験する

体験する

木工体験（椅子作り）の様子



森の価値を高めるアイデアの発表の様子

考える



子どもの反応	- 森には生物の豊かな営みがあって、その営みが人にとってもなくてはならない重要なものということがわかりました。 - 将来、熊野の製材所から木材を買って、木の家を建てたいです。 - 森の大切さをたくさんの人に伝えなければならないと思いました。 - 日本で木が売れないなら、外国で売ればいいと思いました。
講師のコメント	- セーザイゲームで木取りの重要性を学ぶことで、節や木目の出方に興味を持てたようで、椅子作りの際には、真剣に自分が使う木材を選んでいました。 4日間のプログラムを通じて、子どもたちの関係性が深まり、最後のワークショップでは、森の価値について活発な議論ができました。